

## 岐阜キリシタン小史(43)―岐阜を訪れたイエズス会宣教師③― フロイスとロレンソの信長謁見、フロイスの『日本史』のこと

私が所属する教会の母団体である教団には、遠いドイツの地よりイエス・キリストの福音を伝えるために来日された宣教師が何人かいる。その尊い献身に対し、私は心からの尊敬と感謝を捧げたい。

かつて、ポルトガルのイエズス会宣教師ルイス・フロイスもまた、同じ熱意をもって海を渡った。1532(享禄 5/天文元)年にリスボンで生まれたフロイスは、1548(天文 17)年、わずか 16 歳でイエズス会に入会し、すぐにアジア布教の拠点であるインドのゴアへと旅立った。ゴアで司祭となった後、1562(永禄 5)年にゴアを出帆し、マラッカやマカオなどを経由し、1563(永禄 6)年、ついに日本の長崎に到着した。16 歳でリスボンを出てから実に 15 年。この長く困難な旅路の果てに日本を見つめた彼の福音への熱意と忍耐には、私は改めて畏敬の念を抱かざるを得ない。

イエズス会にとって、当時の最高権力者であった織田信長からの公認と庇護は、布教戦略上の至上命題であった。信長とイエズス会宣教師との親密な関係は、戦国時代の日本における外交交渉と文化交流の特筆すべき事例である。その関係維持において、信長の天下布武の拠点であった岐阜城での会見は、宣教活動の基盤を磐石にするために大きな意味を持つものであった。

フロイスが日本に滞在した期間、彼は信長との謁見を幾度となく果たしたが、信長が岐阜を本拠地としていた 1567(永禄 10)年から 1575(天正 3)年の間、拝謁のためにフロイスが岐阜の地を踏んだことは確実視されている。この時期は信長が畿内を掌握していく過程と重なっており、イエズス会にとって新たな権力者からの公認と庇護を得るための、最も戦略的な時期であった。彼らは信長を唯一無二の庇護者と定め、その拠点である岐阜へと赴く必要があったのである。

特に 1569 年(永禄 12)年の岐阜行きにおいては、日本人修道士のロレンソ了斎が通訳としてフロイスに同行した。通訳のロレンソと宣教師のフロイスという二名が、イエズス会を代表して、天下布武の重要な拠点である岐阜城を訪問した。フロイスは布教活動に加え、イエズス会の巡察師ヴァリニャーノらに対し、日本での出来事、文化、大名たちの情報を報告書として送る義務を負っていた。その際に作成された報告書や覚書が編纂され、後に戦国時代の第一級史料とされる『日本史』(Historia de Iapam)として結実した。彼ら一行の岐阜城における体験、信長の豪華な生活、城下町の賑わいの様子、信長の人となり、性格などが詳細に描かれている。信長はフロイスに対し、ヨーロッパの地理や世界の知識について質問を浴びせ、フロイスが持参した世界地図、時計、そして遠眼鏡などの珍しい品々に対する関心は尋常ではなかった。会見の場では、地球儀、時計、地図といったヨーロッパの珍しい品々に対する信長の飽くなき好奇心が常に話題の中心となったという。

『日本史』は、1549 年のザビエル来日から 1594 年までの約半世紀にわたる日本の歴史を、イエズス会の視点から編年体の形式で記述した一大史料である。内容の中心は布教活動の記録だが、特に信長については、その容貌、性格、キリスト教に対する態度に至るまで、他の日本の文献にはない異文化の視点による詳細な人物評が記されており、第一級の史料として世界的にも評価されている。フロイスは、この著作を通じ、華麗な装飾の城内部や、信長が主催した壮大な饗応の記録を残し、その威容と権力の大きさを肌で感じたことを後世に伝えている。

フロイスとロレンソによる岐阜での会見と、それに続く集中的な交流こそが、イエズス会が信長という強力な庇護者を日本で得る上での決定的な契機となったと言える。この歴史的事実は、現代の岐阜市において、郷土の重要な歴史的財産として継承されている。フロイスが信長と関わった史実が、地域の歴史教

育、特に小学校 6 年生の社会科において、戦国時代における国際交流と地域の役割を学ぶための重要な教材として扱われており、岐阜の子どもたちは、この異文化交流の時代を身近な歴史として学んでいる。  
※信長とフロイスのことは、[岐阜キリシタン小史\(1\)](#)、[同\(34\)](#)もご参照いただきたい。

### (参考)ルイス・フロイス『日本史』について

**第一級の史料価値：**戦国時代末期から安土桃山時代にかけての日本の歴史、文化、社会情勢を、外部（ヨーロッパ）の視点から詳細かつ克明に記録した第一級の史料である。特に、同時代の日本の史料にはない、織田信長や豊臣秀吉の人物像や日常の様子に関する具体的で活写された記述が多く含まれている。

**キリシタン史の基盤：**キリスト教伝来（1549 年）から文禄 3 年（1594 年）までの、イエズス会による布教活動の全記録である。ザビエル、信長、秀吉、そして主要なキリシタン大名（大友宗麟、大村純忠、有馬晴信など）の動向が、布教の観点から詳細に記述されている。

**比較文化論的な記述：**フロイスは、ヨーロッパの習慣と比較しながら、日本の文化や風俗について詳細に記述している。当時の日本の宗教（仏教、神道）や、茶の湯、服装、衛生観念など、宣教師独自の鋭い視点による観察が豊富に含まれている。

**原本の状況と構成の特殊性：**原本（自筆本）は失われており、現在に伝わるのはポルトガルリスボンとエヴォラに所蔵されている写本である。原典はポルトガル語で書かれ、時系列で 3 つの部（Partes）に分かれている（1549-1578 年、1578-1582 年、1582-1594 年）。日本語訳では翻訳・編集方針により巻数が異なる（全 5 巻や全 12 巻など）。

**未完の歴史書：**著者のルイス・フロイスが 1597 年に死去したため、記述は 1594 年（文禄 3 年）までで未完に終わっている。

### 全 3 巻の構成と内容：

| 部 (Partes) | 記述期間 (西暦/和暦)                 | 主なテーマ      | 主な出来事・内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第1部        | 1549年 (天文18年) ~ 1578年 (天正6年) | 伝来と布教拡大の初期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>* フランシスコ・ザビエルの日本到着と初期布教（山口、豊後）。</li> <li>* 大村純忠、有馬晴信ら初期キリシタン大名の改宗と領内保護。</li> <li>* 1569年、織田信長との最初の謁見（二条城）と布教の寛容な開始。</li> <li>* 京、堺など畿内での教勢拡大。</li> <li>* 信長による仏教勢力との戦い（延暦寺焼き討ちなど）の記述。</li> <li>* 日本の宗教、文化、風俗習慣に関する比較文化論的な詳細な観察。</li> </ul>                                              |
| 第2部        | 1578年 (天正6年) ~ 1582年 (天正10年) | 信長との蜜月期と終焉 | <ul style="list-style-type: none"> <li>* 巡察師アレッサンドロ・ヴァリニャーノの来日と布教方針の確立。</li> <li>* 安土セミナリヨ（神学校）やノヴィシャド（修練院）の創設。</li> <li>* 安土城の壮麗さの描写。安土宗論でキリスト教が有利に扱われた経緯。</li> <li>* 信長と宣教師の親密な交流。* 天正遣欧少年使節団の派遣決定と準備。</li> <li>* 1582年6月、本能寺の変と織田信長の劇的な死、イエズス会への衝撃。</li> </ul>                                                              |
| 第3部        | 1582年 (天正10年) ~ 1594年 (文禄3年) | 秀吉の台頭と禁教時代 | <ul style="list-style-type: none"> <li>* 豊臣秀吉（羽柴）の急速な台頭と信長の後継者としての地位確立。</li> <li>* 九州統一戦における秀吉とキリシタン大名（大友、有馬、大村）の関係。</li> <li>* 1587年7月、バテレン追放令の発令とその背景分析。* 宣教師の国外退去と残存者による潜伏布教の様子。</li> <li>* 教会やセミナリヨの破壊と、信徒たちの信仰堅持の犠牲。</li> <li>* 天正遣欧使節団の帰国と国内情勢の変化。</li> <li>* 文禄・慶長の役（朝鮮出兵）の初期の記述。</li> <li>フロイスの死去により未完で終わる。</li> </ul> |

(以上)